

令和元年度 第2回仙台市泉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨
(泉6大学まちづくりフェスティバル 意見交換会)

日 時：令和2年2月11日(火・休日)

13:30～14:30

場 所：ウェルポート仙台 研修室1

出席者 ○評価委員

岩動志乃夫 委員長、佐藤重子 副委員長、田中秀夫 委員

○絆プロジェクト助成団体(10団体)

聖和学園短期大学スポーツクラブ BOA SORTÉ、聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL、聖和学園短期大学地域サポーターズ聖笑、仙台白百合女子大学地域生き生きプロジェクト、仙台白百合女子大学大本ゼミ、東北学院大学菅原真枝ゼミ、東北生活文化大学版画研究室、東北生活文化大学スポーツ栄養研究会、宮城大学マイチゼミ、宮城学院女子大学正木ゼミ

○事務局

泉区まちづくり推進課

内 容 泉6大学まちづくりフェスティバル(令和元年度企画事業『大学連携地域づくり事業・いずみ絆プロジェクト支援事業』に該当する団体等のまちづくり活動報告及びワークショップ)終了後に評価委員から学生への評価、助言、団体間の意見交換を行った。

-
- 1 開会
 - 2 委員紹介
 - 3 意見交換・質疑応答等

(委員)

今日は素晴らしい発表をありがとうございました。皆さんの熱心な発表により、普段の活動内容が十分に伝わってきました。意見交換は1時間という短い時間ですけれども、皆さんの事業の工夫した点や、うまくいった点などの議論をお願いしたいと思います。話を伺っていて、大きく4つのカテゴリーがあると感じました。福祉関係の活動が3団体、情報発信を伴うアート・芸術関係が3団体、スポーツを通じた活動が3団体、健康増進のための栄養面に関する活動が2団体の、合計10団体ということでした。まず福祉関係の、聖和学園短期大学 地域サポーターズ聖笑、仙台白百合女子大学 地域生き生きプロジェクト、東北学院大学菅原真枝ゼミの方、この3団体のみなさんが福祉活動をしていて、やっていて良かったと感じた点は、どのようなことでしょうか。

【活動をしていて良かったと感じた点(福祉関係)】

(聖和学園短期大学 地域サポーターズ聖笑)

私達聖笑の活動としては、高齢者との地域交流をメインとしているのですが、参加していただいた方々の「ありがとう」や「楽しかったよ」などの言葉が、私達の活動している中の活力となってい

ます。交流事業の計画から評価まで、すべて学生がメインとして行っているのです、大変なことも多く、学生同士でぶつかったりすることもあります、高齢者の方々の笑顔というのが、私たちメンバーにとって、とても嬉しいことであります。

(委員)

ありがとうございます。続きまして、仙台白百合さんお願いします。

(仙台白百合女子大学 地域生き生きプロジェクト)

私たちが行うイベントは、企画の段階から皆様に関わっていただくことで、若い世代からお年寄りまで、どの世代でも楽しめるイベントになるように、地域の方々と工夫してやっております。その中で高齢者の世代と若い世代の仲が深まっていると地域の方々からもよくおっしゃっていただいております。私達若い世代である大学生が、町内会の話し合いに入ることによって若い意見を取り入れることができますので、どの世代でも楽しめるイベントを作ることができます。これが高齢者の方からとても良い評価を得ており、そういった点で福祉に貢献できていると感じることができます。

(委員)

ありがとうございます。それでは、東北学院大学の菅原ゼミさんお願い致します。

(東北学院大学 菅原真枝ゼミ)

私達はスマもりプロジェクトで体操を主にやっています。本田町という所の公民館に通っている人達の運動する機会を増やすことを目的にやっていたので、まずは運動する機会が増えたこと自体が私達の成果だと思っております。また、今年からは場所を変えて、市名坂にある有料老人ホームで「きらめきカフェ」を実施しています。そこのカフェに地域の方々が来ていただいて、かつ初対面の人達同士が一つになって盛り上がっていると、私達も運営していてとても実感しております。初めての人達同士でもコミュニケーションを取れていることがやっていて良かったと思う点です。

(委員)

ありがとうございます。皆さん、活動する中で高齢者の方から「ありがとう」という声をかけられたり、あるいはどの世代でも楽しめる活動を通してお礼を言われたりなど、そういった所に関して、自分たちの活動が認められたということを実感し、それがまた次への活動に繋がるということをしっかり認識しているということが伝わってきました。

それでは、今度は逆に、活動している中で困っている点や悩みを感じているところがあれば発表してほしいと思います。菅原ゼミの方からお願い致します。

【活動の課題や困っていること（福祉関係）】

(東北学院大学 菅原真枝ゼミ)

課題は二点あります。一点目は実際に活動してみた時のことなのですが、公民館に通っている方々

の集まりに、私たち学生が参加したのですが、運動を目的としていない方々もいらっしゃいました。元々のお茶会など、話の場のままで良かったなどという声も上がっておりますので、そういったところは無理して運動をやらせる必要はないのかなと感じました。二点目としては「きらめきカフェ」についてです。こちらの事業は始めたばかりで勝手がようやく分かってきたところでありますので、今よりももっと学生が主体となってもっと積極的に関わっていければ、さらに楽しい企画を計画できるのではないかなと考えております。

(委員)

ありがとうございます。それでは、仙台白百合さんお願いします。

(仙台白百合女子大学 地域生き生きプロジェクト)

私達も二点あります。一点目が参加人数についてです。昨年、四年生が卒業して、ゼミじゃなくなったことにより、ある種、ボランティア団体ようになっております。本年度は、二年生が4名、一年生が20名ほどというように人数のバランスが少し悪いところがありました。一年生も初めての活動だったため、どの活動に参加すればいいかわからないというところからあまり積極的になれていない部分もありました。一つのイベントに対して学生が24名もいるのに関わらず、実際は2、3名しか参加できなかつたりするところがありました。来年度以降、新しい1年生が入ってくるので、どのようにすれば積極的にイベントに参加してもらえるかということを考える必要があると思います。二点目は、若い世代と高齢者の世代が交流できるイベントについてです。例えば畑作業などを行っている時など、世代間交流はできますが、町内会の方々に依頼をされる時に高齢者向けのイベントと子供向けのイベントを分けて依頼されることが多いです。そのため、高齢者の方と子供たちが一緒にできるイベントを学生のほうから積極的に提案する方が良かったかと反省しております。

(委員)

わかりました。質問なのですが、ゼミからボランティア団体が変わったとのことでしたが、ゼミの時には指導をする先生がいて、勉強の一環として進めてきたと思うのですがけれども、ボランティア団体になり、ゼミの時と変わった点がありますか。

(仙台白百合女子大学 地域生き生きプロジェクト)

昨年指導していただいた先生には、引き続き担当してもらっているが、前よりも学生が主体となり活動しています。勉強という幅を超えて活動の広域化など良い面があります。

(委員)

わかりました。それでは3番目に聖笑さんお願いします。

(聖和学園短期大学 地域サポーターズ聖笑)

活動の地域が限られてしまうというのが大きな課題となっております。活動のメインとなっている地域は館、南中山、北中山地区なのですが、先程ブース展示の際に1人の男性の方からうちの地区

でもサロン活動してくれないかとお声がけをいただきました。しかし、学生が出向くにしても、そちらの地区の方がいらっしゃっていただくにしても、距離が限られてしまうため活動区域が狭まってしまう。また、短大だとどうしても授業を優先になってしまいます。今年度もたくさんお声掛け頂いたが、その中から私達が出向ける、またご高齢の方が学校に来ていただける距離の居住地の方に限られてしまうというのが少しもったいないと思います。

(委員)

そうですね、短大の場合は2年で卒業しなければいけないということで、本当に時間が少なく、発表の中でもとても苦勞しているということがとても感じられました。それから、今お話に出てきた距離が遠い、ということは交通費の問題が出てくると思います。他の団体でも交通費の問題はあると思いますので、その中で工夫している点、交通費をどのように捻出しているのかなど教えていただけたらと思います。正木ゼミの方々、いかがでしょうか。

(宮城学院女子大学 正木ゼミ)

私たちの活動でかかる交通費は、ラジオの取材をさせていただく場所やお店に出向く時です。ゼミ共有のicscaを用意しています。活動資金からの出資になりますが、ほかの団体と比べ、交通費はそこまでかかっていないと思います。

(委員)

その活動資金は自分たちで出資しているのか、それともスポンサーの企業等からの補助などでやりくりしているのか、いかがでしょうか。

(宮城学院女子大学 正木ゼミ)

ゼミに入る時に活動資金として集めるお金があつて、それから出ています。それを教授に管理していただいております。

(委員)

自前でやりくりしているということですね。

(宮城学院女子大学 正木ゼミ)

そうですね。

(委員)

ありがとうございます。それでは宮城大学マイチゼミの方お願いします。

(宮城大学 マイチゼミ)

私たちは、地域イベント活性化の為に告知ポスターなどを作っていて、デザインの視点から地域に貢献しております。こういったイベントなのか、ポスターのサイズや中身をどのようにすればいいのかなどの打ち合わせを行う際に、公共交通機関を使います。しかし、活動のメインであるポスタ

一の作成などは大学で行うので、私たちも交通費はあまりかかりません。

(委員)

分かりました。それでは、東北生活文化大学スポーツ栄養研究会さんお願いします。

(東北生活文化大学 スポーツ栄養研究会)

交通費に関しましては、打ち合わせなどを大学の研究室で行っておりますので、あまりかかりません。トレイルラン（泉ヶ岳で開催）に関しては人数が少ないということもあり先生の車に乗り合わせで行くようにしております。

(委員)

分かりました。人数が少ないとそういったメリットもありますよね、ありがとうございます。それでは版画研究室の方お願いします。

(東北生活文化大学 版画研究室)

私たちのゼミは、毎年7月に行うTシャツ展というイベントの中で、自分たちでデザインしたTシャツやポストカードを販売する機会があります。そのイベントで得た収入や、昨年度からの繰り越しで、先輩方がゼミ費として置いていったお金などがあります。交通費は自己負担が多いですが、学校の制作で使うインクや道具などは、イベント収入やゼミ費で賄っております。あとは大学のほうから、ボランティアのための交通費が1部出るのですが、今まではあまり交通費を気にしたことはありませんでした。

(委員)

ありがとうございました。それでは、次はスポーツの活動を行っている方々はどのように交通費を工夫しておりますか。

(聖和学園短期大学 スポーツクラブ BOA SORTÉ)

メインの活動であるサッカー教室は、聖和学園短期大学のグラウンドで行うので特に交通費がかかるということはないです。サッカー教室の企画をする時なども学校の教室で行うので、こちらも特に交通費がかかるということはないです。

(委員)

ありがとうございます。それでは隣のDANCE FOR ALLさんはどうでしょうか。

(聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL)

私たちは、ダンスやよさこい演舞の依頼を受けた時は、参加学生を載せるマイクロバスなどのレンタル代としてお金がかかることがあります。ただ、依頼を受けた時は謝礼金などをいただくこともあるので、そちらで賄っております。

(委員)

そうすると、1年の活動を通して、交通費は足りているという状況ですか。

(聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL)

自費の場合もあるので充分ということではないのですが、ある程度は足りております。

(委員)

分かりました。ありがとうございます。皆様、自費であったり、学校の補助であったり、この泉区からの助成金などが役立っており、工夫されているということでした。それではお話を戻して、福祉関係の方にお話を伺いましたので、次に情報発信アート関係の方に伺いたいと思います。仙台白百合女子大学の大元ゼミさん、東北生活文化大学の版画研究室の皆様、それからポスター作成のマイチゼミの皆様という三つの大学が該当すると思います。まず、大元ゼミの皆さん、やっていてよかったという部分はどのようなところがありますか。

【活動をしていてよかったと感じた点（情報発信、美術関係）】

(仙台白百合女子大学 大本ゼミ)

私達は、昨年度から泉区に関する活動を始めたので、まだ何かに繋がるようなことはまだできていないのですが、ロイヤルパークホテルなどのパンフレットの英文訳や中国語訳をやらせていただきました。また、泉ヶ岳のスキー場の方からもお話をいただいているので、そのような面で役に立てることを嬉しく思います。今後もこのような活動ができればいいなと思っております。あとは、泉区のお店のPRを、SNSを通じて発信しているのですが、その中で感謝の言葉を述べられるととても嬉しく感じるができます。

(委員)

ありがとうございます。次に東北生活文化大学の版画研究室の皆さん、やっていてよかったこと、これからも続けたいなあと思う時はどのような時ですか。

(東北生活文化大学 版画研究室)

私のゼミは、今回もブース展示の方でトートバッグにシルクスクリーンでプリントをする体験をしてもらい、やったことがない人に経験をしてもらうことによって、「こういう風になっているんだね」というように、版画というものを深く理解してもらえる。自分たちが今まで学んできた版画のことや、技法を教えることにより、さらに理解を深めることができ、それを通して自分の力も身につけていけると思った時にやりがいをととても感じるができます。

(委員)

確かに自分たちで行う力と、それを相手に伝える力というのはまた別のものですからね。ありがとうございます。それでは、宮城大学のマイチゼミの方お願いします。

(宮城大学 マイチゼミ)

私達は先程もお話しした通り、告知のポスターや、イベントの中で使われる制作物をご依頼され、作成しています。そのような活動の中で、地域の掲示板に自分たちが作成したポスターが掲示されているのを見ると、頑張って良かったなと思えます。さらに、イベントポスターの作成依頼を受けたときは、関係者の方が参加するイベントミーティングに最初から参加させていただいております。当日、私たちもイベントの運営に携わるのですが、そこで初めて地域の方々と顔を合わせて、子供たちやお年寄りの方などの色んな年代の方がそのイベントを楽しんでいる姿を見ます。その姿を見ると、“ポスターのデザインを手掛けているだけ”、“イベント告知のためにただ紙一枚のものを作っただけ”ではあるのですが、そのイベントの中で人々が楽しんでいる様子を見ると、デザインの先にある、もっと深い達成感などを感じることができます。また、イベントに参加した方から意見をもらうこともあります。「ポスターとても良かったけど、ここをもっとこうした方が人集まるかもね」、「来年はこういう写真も使ってほしい」などとおっしゃっていただくこともあるので、今よりももっと頑張らなくてはいけないと感じますし、自己成長に繋がっていると感じることができます。

(委員)

地域の人に楽しんでもらうということがまず一つ嬉しい事だけれども、逆に地域の人たちからも教えられることもある、そしてそれが自分たちの成長に繋がる。地域の方とそのような相互依存の関係にあり、とてもいい活動ができているということが伝わってきました。どうもありがとうございます。それでは次の質問をさせていただきます。それぞれの分野でいろいろな工夫をされていると思うのですが、こういう事があればいいなあ、あるいは、活動していく中でこうしたいけれどもまだそれができない等ということがあればそれを教えてください。それではマイチゼミさんからどうぞ。

【活動の改善について（情報発信、美術関係）】

(宮城大学 マイチゼミ)

ポスターなどを製作して、当日イベントに参加させてもらおうと、イベントの認知度の向上や、人がたくさん集まっているということを漠然とは感じることはできるのですが、前年度の人数との比較や、どういった方、どれぐらいの年代の方が来ているかなどが具体的にはわかりません。こういった点に加え、地域のイベントの趣旨や、どういった方に参加してほしいかなどを、デザインをする前段階で突き詰めていければ、今よりもっと良いポスターやイベントに繋がるのではないかと思います。

(委員)

ありがとうございます。では版画研究室の方お願いします。

(東北生活文化大学 版画研究室)

私達は、よくワークショップでトートバッグ製作体験などを行っており、毎回たくさんの方々に利用させていただいております。その反面、トートバッグなどの材料などが、早い段階でなくなってしまうこともあるので、もっと多く用意しておく必要があるのかなと思います。また、ワークショッ

プの内容が毎年同じようにならないようにするためにも、アンケートなどを用いて、どのようなことなどをやってみたいかなどの意見を集計していくとさらに楽しいワークショップを作れると思います。

(委員)

そうですね、アンケートなどをとり、次年度に向けての自分たちの課題を発見するというのはとても大切でいいことですよね。どうもありがとうございます。それでは仙台白百合女子大学の大元ゼミさんをお願いします。

(仙台白百合女子大学 大本ゼミ)

私達は、SNS を用いての情報発信を行っています。今よりもより良い活動にするためにも、インターネット上だけでなく、他の大学の皆様のように直接発信していけるような形も取ればいいと思います。また、先程のブース展示の際、防災に関わることを英文訳や中国語訳してほしいという意見もあったので、そういうこともやっていけたらいいと思います。

(委員)

どうもありがとうございます。それでは次にスポーツ関係の活動を活発にされている団体に意見を聞きたいと思います。それでは聖和学園短期大学 スポーツクラブ BOA SORTE さん、活動していて一番良かったこと・嬉しかったことは何ですか。

【活動をしていてよかったこと、嬉しかったこと（健康、スポーツ関係）】

(聖和学園短期大学 スポーツクラブ BOA SORTE)

私たちの主な活動がサッカー教室であり、その中で行う練習メニュー等を自分たち学生で全て決めています。練習が終わった後、参加してくれた子供達から「楽しかったよ」、「また次もこういうことやってね」などと、「楽しかった」と思ったことを表に出して私たちに伝えてくれることがとても嬉しいです。

(委員)

ありがとうございます。それでは、DANCE FOR ALL の皆さんはどうでしょう。

(聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL)

私達の活動では、よさこいやダンスを通して、地域の方や子どもたちと関わっています。普段なかなか触れ合えない地域の方々と交流できるということがやっていて良かったと思う点です。また、地域の方から毎年多くの依頼を受けるので、聖和学園短期大学の名前を覚えてもらえることがすごく嬉しいことだと思います。

(委員)

確かにそうですね。定期的にイベントやお祭りなどに出演されているので、私の住んでいる地域でも毎年楽しみにしている人が多いです。そういった活動は、地域の方に元気を与えるので大切なことだと思います。

それでは次の質問です。皆様の活動の中で、けがの対策などをどのように取られているか教えてください。

【活動中のけがの対策について（健康、スポーツ関係）】

（聖和学園短期大学 スポーツクラブ BOA SORTÉ）

サッカー教室の参加者が、幼児や小学生などで、楽しくなっちゃうと周りが見えなくなってしまうような子達が多いです。そのため、コートを作るときには物と物の間隔を広くとり、何かあった時や転んだ時でも、ぶつからないようにしています。幼児に対しては柔らかいボールを使用し、メニューでもそんなに激しくないものを取り入れるなどの工夫をしています。

（委員）

どうもありがとうございます。次に DANCE FOR ALL の方々、いかがでしょうか。

（聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL）

私たちの活動は自分たちが踊ることも多いので、自分たちが怪我をしないということはもちろんなのですが、それに加えて、地域の高齢の方や子どもたちなどと活動する時は、使用する道具を落としたり、お互いがぶつからないように気をつけている点です。

（委員）

ありがとうございます。それでは最後になりますけれども、栄養関係の活動で地域の活性をもたらしている二つの団体さんにお話を伺いたいと思います。まずはスポーツ栄養研究会さんからお願い致します。自分たちが活動していく中で、嬉しいことや、来年もっと頑張ろうと思えるような気持ちになる時はどういう時でしょうか。

【活動を通して学べたこと、嬉しかったこと（栄養学による健康増進活動）】

（東北生活文化大学 スポーツ栄養研究会）

地域の特産物などを使って、新たな商品を考えたりすることがあります。その活動を通して今まで知らなかった地域の良いものを知れたというのが、とても良い経験になったかなと思っております。

（委員）

知らなかった地域の良さを見られた時に、自分たちの活動の意義を認識できたということですね、ありがとうございます。それでは正木ゼミの皆さんはいかがでしょう。

（宮城学院女子大学 正木ゼミ）

私たちは皆さんの活動と違い、ラジオ放送なので、視聴者である地域の方の顔が直接見ることができませんので、なかなか自分たちの活動の実績が分かりづらいです。しかし、泉区の皆さんに役立つ情報を発信するために、栄養の知識や泉区内の観光スポットやお店などを知ることができました。また、どのような方法で情報を発信するのが一番、地域の皆さんに情報がいきわたるのか、泉区の皆さんが知りたい情報がどのようなことなのかなども知ることができたのが次年度につながる

良い経験になったと感じております。

(委員)

ありがとうございます。ラジオでそういうような栄養学を通し情報発信やお店を紹介していく中で、地域の皆様の役に立っているところが自分たちのやりがいであるということですね、ありがとうございます。それでは逆に、今こういうところで困っているということがあれば教えてください。正木ゼミの皆様からお願いします。

【課題、困っていること（栄養学による健康増進活動）】

(宮城学院女子大学 正木ゼミ)

先程申し上げたように、地域の皆様の顔が直接見えないので反応がわかりません。しかし、他の団体の皆様がしていないようなことをしているので、それをどうにかうまく活かせないかなと思っています。また、この活動自体を知らない泉区の方が多いと思います。私達自身もこの情報の発信を通して、泉区の方の役に立ちたいと考えているので、如何にこの活動を知ってもらえるかが大切になってくると思います。

(委員)

ありがとうございます。それでは、スポーツ栄養研究会の皆様はいかがですか。

(東北生活文化大学 スポーツ栄養研究会)

本活動を始めてまだ1年目ですので仕方ないと思う部分もありますが、私たちも活動があまり認知されていないところが問題だと考えています。活動を通して、地域の方でも知らない特産品などがたくさんあるということが分かったので、引き続き私達の活動で地域の人にそういった情報をもっと広められれば良いと考えております。また、もっとイベントに多く出て、自分たちの活動を今よりも広められれば良いかなと思っています。

(委員)

どうもありがとうございます。一通り話を伺うことができましたが、委員のお二人からも、もっと聞きたいことがあればよろしくお願い致します。

【評価委員からの質問】

(田中委員)

今日は皆様の活動のお話を沢山聞けて、とても刺激になりました。活動を通して成功した話も気になったのですが、私としては失敗した話も聞きたいと思います。東北生活文化大学のスポーツ栄養研究会の方、なぜベガルタのファン感謝祭で出店できなかったのか、あとは仙台白百合女子大学の大本ゼミさん、13か所取材して11か所は情報発信できたとのことでしたが、なぜ2か所は情報発信をすることができなかったのでしょうか、理由をお聞かせいただければと思います。

(東北生活文化大学 スポーツ栄養研究会)

他のイベントと日程が重なったため、ベガルタ仙台のファン感謝祭には出店できませんでした。

(仙台白百合女子大学 大本ゼミ)

1 か所目は写真を撮られるのがダメだったということで、情報を載せることができませんでした。

2 か所目は、経営されている方がご高齢ということもあり、SNS で情報を発信して、もし外国人の方にでも来られたら困るということで、今回はアップすることをやめました。

(田中委員)

わかりました。ありがとうございます。

(副委員)

皆様、ご苦勞様でした。聖和短大 聖笑さんのところで、学生が地域に出向くのと、地域の方が学校に行くというのはどのように違いますか。

(聖和学園短期大学 地域サポーターズ聖笑)

私たちが地域に出向くのと違い、地域の方に学校へ来ていただくと、他の学科を専攻している学生とも交流することができます。例えばビジネスを専攻している学生からは、今はこのような介護ロボットがあるというお話をできたり、フードやカフェに関することを勉強している学生からは、実際に豆から挽いてコーヒーを入れてくれるなど、たくさんの学生と関われるところが学校開催のいいところかなと思います。

(副委員)

ありがとうございます。地域の方にも広めたいと思いました。また大本ゼミさんの活動を正木ゼミさんの方でラジオ放送するなど可能なのでしょうか。

(宮城学院女子大学 正木ゼミ)

そのようなお話は頂いたのですが、諸事情により出来なかったということがありましたので、また是非来年お願いしたいと思います。

(仙台白百合女子大学 大本ゼミ)

よろしく願い致します

(委員)

皆様、ありがとうございました。それでは最後に皆様にお聞きしたいことがあります。活動の中で行政の支援、つまり泉区からの支援に対して何か要望があればこの場でお話しいただければと思います。

【行政への要望】

(聖和学園短期大学 スポーツクラブ BOA SORTE)

特にありません。

(聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL)

特にありません。

(聖和学園短期大学 地域サポーターズ聖笑)

先程もお話ししたのですが、交通費などの金銭的な支援をもう少し頂けると移動の幅が広がるなと思います。また、今日の発表を聞かせていただいて他大学さんとのコラボレーションもしてみたいと思ったので、それぞれの大学の文化祭やイベントなどでコラボできるような活動や、お互いが連絡を取りやすいような手段があると、もっと泉区の六大学としても活性化するのではないかなと思いました。

(仙台白百合女子大学 地域生き活きプロジェクト)

いつも連絡を円滑にさせていただいて助かっているのですが、一点挙げるとすれば、泉区からイベント参加のお誘いを頂くのですが、イベント開催日まで時間があまりなく、準備期間が取れないため断ったということがありました。私たちとしても、様々なイベントに参加したいので、可能であればもう少し早くイベントの情報を頂けると助かります。

(仙台白百合女子大学 大本ゼミ)

私達は外部へ取材に行くことが多くあります。交通費は泉区の助成金の方で出してもらっているのですが、カフェなどに取材に伺った時などは、さすがに何も食わずに帰ってくることもできないので、できれば食事代の方にも助成金を使わせていただければ助かります。

(東北学院大学 菅原真枝ゼミ)

昨年と比べ、今年から出張でプロジェクトをやる機会が増えておりますので、交通費をもう少しいただければ助かります。

(東北生活文化大学 版画研究室)

私達からも、ワークショップの際にかかる交通費についての要望です。宮城県には美術学科がとてもなく、遠方から東北生活文化大学に来ている学生がたくさんいます。版画研究室にも、仙台市以外から通っている学生や、一人暮らしの方もおりますので、実費での交通費の支払いが難しく、ワークショップに参加できない学生もいます。質の良いワークショップを行うには人手が必要です。交通費の面でさらに支援していただけたら、多くの方に版画の楽しさを知ってもらえるような楽しいワークショップができると考えております。また、ボランティア証明書についてなのですが、版画研究室で泉区内のボランティア活動を行った場合、参加証明書がもらえるのかお伺いしたいです。

（高橋課長）

基本的に区が関わっている事業であれば出せると思います。

（東北生活文化大学 版画研究室）

ありがとうございます。

（東北生活文化大学 スポーツ栄養研究会）

私達もさまざまなイベントに参加したいので、大まかな1年間のイベントスケジュールなどをいただけるととても助かります。そうすれば予定がかぶったりすることも少なくなると思います。また、他の大学さんと情報共有できる機会がもっとあればいいのかなとも思います。

（宮城大学 マイチゼミ）

区への要望などは特にはないのですが、本日のような情報交換会を通じて、皆様すごく素晴らしい活動をされているということがわかりました。自分の身の回りや地域の方にも、さらに知ってもらえれば良いと思いました。

（宮城学院女子大学 正木ゼミ）

私達も特に要望などはないのですが、正木ゼミで行っているラジオの番組で、“泉区いいところ大発見”というラジオコーナーがございまして、もし泉区さんの方で紹介してほしい場所や情報などがありましたらいつでも情報をいただけたらと思います。

（高橋課長）

ありがとうございます。

（委員）

今のお話を聞いて、区への要望で一番多かったのは、やはり交通費に関するものでした。交通費がもう少しあればさらに活動が充実するということが伝わってきました。また、イベント参加に対する情報をもっと早く欲しいという要望もありましたが、こちらはすぐに実行できることだと思うので、泉区の方でも早急に対応していただけたらと思います。それから、他大学とコラボする機会が今まであまりなかったということで今よりもそのような機会を増やしたいということもあったと思います。

【まとめ】

（委員）

皆様が様々な分野で、泉区内外で活動するということは、活動先の地元の方々に非常に元気を与え、その元気を与えたことによって活気が生まれます。そして、その地元の人達が皆さんの活動を見て自分たちももっと頑張らなければというようにやる気が出てきます。それが地域活性化の一つ

のサイクルだと思います。それをもたらすために、皆さんが大変重要な役割をしているということを肝に銘じていただき、また次年度以降も泉区を元気にするために活動して欲しいと要望をして、この会を閉じたいと思います。本当にみなさん長時間にわたりありがとうございました。

(学生一同)

ありがとうございました。